

令和5年12月22日

三浦市議会議長 出口 眞琴 様

都市民生常任委員会  
委員長 神田 眞弓

## 令和5年度 都市民生常任委員会行政視察報告書

### 1. 視察日程

令和5年11月20日（月）・21日（火）

### 2. 視察地

福岡県 大川市 11月20日

佐賀県 武雄市 11月21日

### 3. 視察参加者

都市民生常任委員会

委員長 神田 眞弓

副委員長 石橋むつみ

委員 石崎 遊太

委員 下田 剛

委員 森谷久一郎

委員 出口 景介

随 行 幸田 友樹

### 4. 視察事項

○福岡県 大川市 子育て支援総合施設「モッカランド」について

○佐賀県 武雄市 武雄市図書館・こども図書館について

【11月20日(月)】

(大川市HPより)

## ■ 福岡県 大川市の概要

- ・面積 33.62 平方キロメートル
- ・人口 31,711 人 (令和5年10月31日現在)
- ・世帯数 13,978 世帯 (〃)
- ・産業別 第1次産業 (6.8%) 第2次産業 (29.0%)  
第3次産業 (64.2%)
- ・市制施行 昭和29年4月1日



## ■ 沿革・位置

昭和29年4月1日に大川町を中心とした三又・木室・田口・川口・大野島村の6か町村が「町村合併促進法」に基づいて合併し、大川市が誕生しました。

大川市は、福岡県南部の主要都市である久留米市、大牟田市や佐賀県佐賀市を結ぶトライアングルのほぼ中心に位置しています。筑紫平野のほぼ中央に位置し、筑後川が市の西部を流れ有明海に注いでいます。市内には約300キロメートルにもわたるクリーク（水路）が縦横に走り、独特の景観を有しています。



## ■ 産業

主要な産業は、「大川家具」「建具」などの木工業で、木工所、家具店、製材所などの木工業関連の建物が集積しています。

また、筑後川と有明海の豊かな恵によってもたらされる水稲・いちご・海苔などの農水産業も盛んです。

職人MADE



大川家具

By 大川市



大川市マスコットキャラクター  
「モッカ君」

# 大川市子育て支援総合施設「モッカランド」について

## ● 視察目的

将来を担う子ども達の育成及び子育て世帯への支援施策は非常に大切なものであり、ますます充実していく必要があります。

令和3年10月に開設した大川市子育て支援総合施設「モッカランド」について、施設の概要や取組みについて調査し、今後の参考とすることを目的とします。

## ● 視察先対応者

進行：大川市議会事務局 和田事務局長

挨拶：遠藤博昭議長（歓迎の挨拶後、公務のため退席）

説明員：子育て支援総合施設モッカランド 古賀施設長

同

宮崎課長補佐

## ● 視察訪問先 子育て支援総合施設モッカランド

## ● 視察概要

大川市子育て支援総合施設「モッカランド」は大川市役所から徒歩で10分ほどの位置にある大川中央公園の敷地内にあります。

市内に点在する施設を集約し、妊娠から子育て期までワンストップで支援できる施設として整備されました。



モッカランドの主な機能と事業として次の機能を有し、それぞれが連携し、様々な子どもと家庭を支援しています。

モッカランドの主な機能と事業として次の機能を有し、それぞれが連携し、様々な子どもと家庭を支援しています。

- ・母子手帳の交付、乳幼児健診、離乳食教室、子どもの予防接種等母子保健を担う「子育て世代包括支援センター」
- ・家庭児童相談、養育支援訪問等虐待・要保護児童対応を担う「子ども家庭総合支援」
- ・にこにこ相談会、ことばの教室等発達支援を担う「児童の発達支援事業」
- ・モッカルーム（プレイルーム）の運営、子育て講演会等子育て中の親子の交流の場を担う「地域子育て支援拠点」

モッカランドの利用は、大川市民だけでなく近隣の他市町居住者が約4割を占め、開館後の来館者は累計7万人に到達しています。

市役所へ相談となると、敷居が高くなると感じる方も多い中、公園や図書館との相互利用により「ついで」に利用し気軽に行けるよう工夫がされています。

また、令和5年10月から「こども家庭センター」をモッカランドに設置しすべての妊産婦・子ども・子育て世帯への相談対応をし、民間資源・地域資源と一体となった支援を実施しています。

研修後は各施設の見学をさせていただきました。

#### 【主な施設】

- ・モッカルーム…就学前の子どもたちが遊べる遊具やおもちゃを用意
- ・クッキングルーム…離乳食教室や親子クッキングなど教室を開催できる調理室
- ・モッカフェ…お茶、軽食がゆっくりできるカフェ兼ワーキングスペース
- ・学習室・多目的ホール…各種会議やセミナー、子育てサークルなどの活動ができる部屋
- ・ファミリー・サポート・センターおおかわ…子育て中の方を地域の皆さんで応援するために設置
- ・その他…絵本コーナー、おひさまデッキなど



## ■ 主な質疑応答

Q：平日と土日の利用者について

A：平日と土日では使い方が違う。  
土日はイベントなどが多い。  
相談はどちらでもあるが、平日のほうが件数が多い。



Q：モッカルームの利用制限について

A：コロナの影響で人数制限をしていたが、現在平日は制限していない。土日は利用が多いので1日7組に限定している。利用できない方もいる。

Q：ファミリーサポートについて

A：立ち上げ時は50～60人ほど、立ち寄りで登録する人もいる。提供側は5日間のプログラムがあり、全て受けたのち登録していただく。自宅での預かりが元々であったが、施設預かりならできるといの方がそれなりにいる。モッカランドでも施設預かりが多い。

Q：ファミリーサポートの会員数について

A：おねがい会員（依頼側）が349人、みまもり会員（提供側）が75人、どちらも登録している会員が27人。

Q：障害児支援は公営、民営のどちらか

A：受け入れは民間のみ。相談機関は市役所、民間施設の2ヶ所ある。

Q：元々の子育て支援センターの頃との違いについて

A：教育委員会との距離が（物理的にも）遠かった。モッカランドができてから近くなり、連携がとりやすくなった。

Q：職員の体制について

A：正規職員8人、会計年度任用職員15人（事務職、保健師、歯科衛生士、管理栄養士など）

Q：医療機関とはどのような契約をしているのか

A：委託等でなく委員として医師に入っていただくなどしている。色々なパターンで相談に乗っていただいている。

Q：産後のケアについて

A：大川市には産婦人科がなく、柳川市に依頼している。

Q：事業費と財源について

A：総事業費は約7億9千万円。約2分の1を国の地方創生拠点整備交付金を充て、残りはふるさと納税を活用した。

Q：モッカクラブの運営方法について

A：既存のアプリ「母子モ」を利用している。かかる費用は月数万程度である。

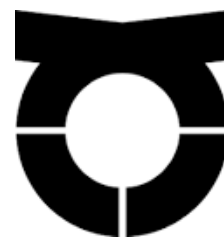


【11月21日(火)】

(武雄市HPより)

## ■ 佐賀県 武雄市の概要

- ・面積 195.4 平方キロメートル
- ・人口 47,521人 (令和5年10月31日現在)
- ・世帯数 19,095世帯 (〃)
- ・産業別 第1次産業 (5.5%) 第2次産業 (27.6%)  
第3次産業 (66.8%)
- ・市制施行 平成18年3月1日 (旧武雄市、山内町、北方町が合併)



## ■ 位置・地勢

武雄市は、佐賀県の西部にある温泉都市です。長崎自動車道武雄北方インターチェンジ、西九州自動車道武雄南インターチェンジがあり、博多からJRで1時間、九州佐賀国際空港から車で40分、長崎空港から車で40分(高速利用)の所に位置し、西九州における交通の要所となっています。



大部分が山地で山林面積は50%を占め、佐賀県内を横断する松浦川と六角川の源流を持ち、武雄盆地内を武雄川・高橋川などの小流が六角川に注いでいます。市の中心部には、舟の形をしたシンボリックな山「御船山」、西部には谷を挟んで向きあう雌岩・雄岩、「21世紀に残したい日本の自然百選」にも選ばれた「黒髪山」、樹齢3,000年を超える3本の大楠があり、雄大な山々と豊かな自然に囲まれています。黒髪山や杵島山、八幡岳などの雄大な山々に囲まれた盆地地形のため、内陸的な気候を呈しています。

また、1,300年の歴史を誇る温泉郷、420年以上の歴史を誇る陶芸の里、そして巨木の里としても広く知られています。

## ■ 沿革

明治22年に政府の憲法制定公布に伴い、武雄では18ヶ村が1町7村に、山内では5ヶ村が2村に、北方では4ヶ村が2村となり、幾度かの合併を経て、現在の武雄市となりました。

# 武雄市図書館・こども図書館について

## ● 視察目的

市内3カ所に配置されている三浦市の図書館は現在、1館は建替中、1館は市役所移転に合わせて新しく整備計画中、また指定管理者制度の導入を検討しているなど転換期を迎えています。

そのような中、先進的な取り組みを行っている武雄市図書館及びこども図書館を視察することといたしました。

## ● 視察先対応者

進行：武雄市議会事務局 川久保局長

説明員：武雄市図書館・歴史資料館 溝上館長

## ● 視察訪問先 武雄市図書館、こども図書館

## ● 視察概要

武雄市図書館は平成12年10月1日開館、平成29年4月リニューアル、指定管理者制度を導入しました。平成29年10月1日にこども図書館が開館しました。施設の管理・運営は指定管理者カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)(CCC)が行っています。



指定管理者制度導入前の課題として来館者の伸び悩み、特に若者層、子育て世代の利用の難しさ、講座、イベントのノウハウ不足がありました。そこで民間事業者の連携を模索し、「新しい図書館づくり」に取り組みました。

### 【主な取組】

- ・ 蔦屋書店、スターバックスを設置…本の貸出、読書以外の利用促進を図るとともに民間企業に必要な営利を得る。
- ・ 学校、保育園等への支援・連携…市内小中学校に団体貸出、学校図書館の助言、協力等
- ・ 講座・ワークショップなど多種多様なイベントを開催…年間1,500回イベント開催を目標
- ・ こども図書館建設…図書スペースのほかカフェテラス、フードコート等設置。また、授乳室完備、保育士などによる子育てサポーターサービスが受けられる。



- ・多目的スペースの新設…中高生のグループ学習と通常の閲覧、談話等をすみ分ける。

研修後は各施設の見学をさせていただきました。



## ■ 主な質疑応答

Q：指定管理者による運営について

A：指定管理期間は5年、効果は前述の取組みによりサービスが拡充し、利用者が増加した。

Q：図書館ホームページ運営方法、運用コストについて

A：運営は指定管理者が行っている。他のシステムとセットのため単体でのコストは出せない。

Q：職員の配置について

A：図書館は館長、社員、アルバイトを合わせて32人、内司書資格保有者は18人。勤務体制は8時間2交代制。（他に蔦屋書店、スターバックス、こども図書館フードコート担当がいる）



Q：図書の選定基準について

A：資料収集方針に沿っている。やきものや温泉に関するものを集める等の特色がある。

Q：飲食をしながら本を読んで、汚損した際の対応について

A：特に弁償は求めている。

Q：導入時及び更新時の事業者選定方法について

A：導入時と2期目については随意契約。3期目は公募で行った。

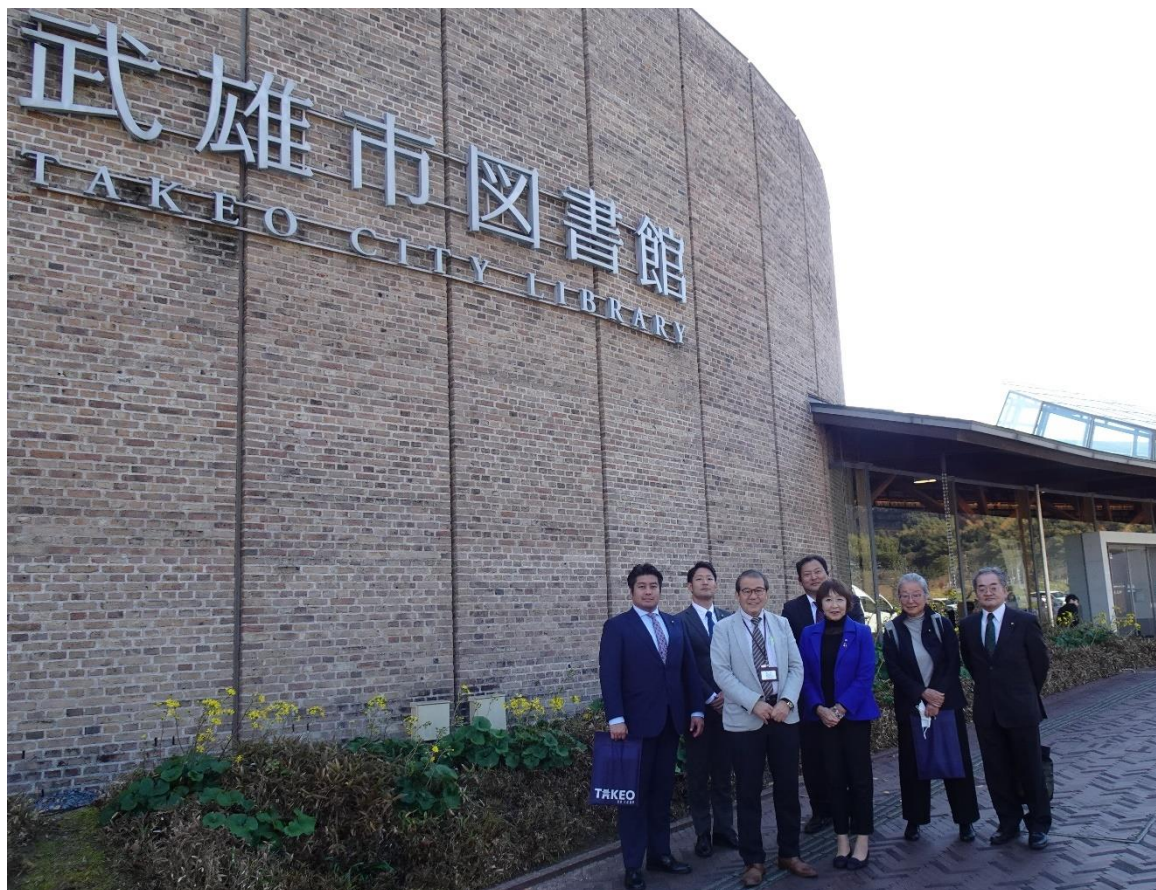


Q：平成12年に設計・施工された施設を再改築できた財源について

A：合併特例債を活用することができた。

Q：こども図書館の建設は当初から予定されていたのか

A：当初から予定していたものではなかった。



# 行政視察の成果について

## 都市民生常任委員会行政視察

都市民生常任委員長 神田 眞弓

11月20日（月） 福岡県大川市  
大川市子育て支援総合施設 モッカランド



快晴の中ポカポカと暖かくモッカランドに到着しました。

人口 31,711 人の木工業はじめ、イチゴの生産やのり養殖など盛んな産業に支えられ県南の中核都市として発展してきた市です。

木工の市らしくモッカランドは木造作りでとてもあたたかく感じられる施設でした。

この施設は妊娠期から子育て期までの子どもと家庭を支援するとともにイベント等をとおして学習や交流の場を提供し、地域における子育て支援の拠点として設置されています。

子育てのすべての機能が集約されて相談事業や乳幼児健診率も高い。

乳幼児だけでなく、隣接する公園でのグランドゴルフの練習後、モッカフェでランチをする高齢者の憩いの場にもなっています。

この研修で大川市議会遠藤議長、和田事務局長、モッカランドの古賀施設長はじめ職員の皆様、お忙しい中本当にありがとうございました。

11月21日（火） 佐賀県武雄市  
武雄市図書館・こども図書館

視察2日目も快晴の中お邪魔しました。

人口47,521人の温泉地で有名な武雄温泉。九州新幹線も開通して人の流れも戻ってきました。

武雄市図書館はリニューアル前に一度視察させていただき、今回2回目の訪問となりました。

当初は先進的な図書館でした。しかし月日がたち、来館者の伸び悩み、若者層、子育て世代の利用率、講座・イベント等のノウハウ不足などの課題や問題点も出てきて、平成25年指定管理者制度を導入し①いつでも利用できる図書館②居心地のいい図書館③体験できる図書館を目指しました。

ビジネスモデルとして蔦屋書店、スターバックスも営業に加わったほか、新たにこども図書館も新設され学校、保育園等への支援連携もでき多種多様なイベントも開催され毎日図書館に行きたくなる仕組みを作っています。

小さい頃から本に囲まれて育つ、本に親しむきっかけ作りができて素晴らしい図書館でした。

この視察にあたりまして、議会事務局川久保局長、溝上館長にはお忙しい中丁寧な対応ありがとうございました。

まとめとしまして、両市を訪問させていただき、子育て支援関係が1つに集約されているので利便性もあり利用率もあがることが見込めます。

施設内に図書館があったり、誰でも利用できる屋内・屋外の遊び場があり、様々な手続きや相談が可能な施設でそこに行けばこどもに関する支援情報をすべて知ることができます。

ネットや紙面等で情報発信することだけでなく、子育てに必要な集約した施設があることが望ましいです。

子育て支援策はソフト面も重要であるが、ハード面も同じくらい重要であると強く感じ当市でも一日も早い実現を目指していきたいと思います。

---

## 行政視察報告

副委員長 石橋 むつみ

### 1 大川市子育て支援総合施設「モッカランド」

市内に点在していた、または老朽化していた、保健センター、子育て支援センター、市役所子ども未来課など・・・いくつかの施設や機能をひとつところにまとめて、「子育て支援総合施設」として大川中央公園内に開館したのが2021（R3）年10月。

法の改正で都市公園の中に社会福祉施設の設置が可能となった事もあり、まわりも広々、施設も広々。平屋作りで、木工のまちというだけあって、地元の職人さん・業者さんがたとの協議もあったという、木を活かしたのびのびとした施設でした。

健診のついでに、母子手帳申請のついでに、予防接種のついでにちょっと相談・・・図書館に来たから・・・などと、立ち寄りやすい雰囲気、立ち止まれる居場所がある、というのは大事な視点です。



開館後1年11ヶ月で来館者累計7万人とのこと。

これほどの広さや、一ヶ所に集約、というのは三浦市ではなかなか望めないけれど、ファミサポにしても、発達支援にしても、ちょっと立ち寄って相談、ちょっと立ち止まって情報共有を・・・など、三浦で参考にできればと考えつつ、視察を終えました。

## **2 武雄市図書館・歴史資料館、こども図書館**

築23年の武雄市図書館本館(図書館・歴史資料館)と、8年前開館のこども図書館とが一体となり、生涯学習施設の拠点として、武雄の風景に溶け込んでいるのを、しっかり、目に焼き付けて来ました。

特に、10年前、2013年に指定管理者制度を導入し、施設も運営もリニューアルしたこと、リニューアルするまでの経過や、新図書館の構想、住民意見をどのように聞き、くみ上げたか、事業を進めていくスタッフ体制、仕組み、次へつなげる人材育成についてなど、溝上館長から、丁寧に、ご説明いただきました。

つねに、教育委員会と連携をとり、進めてきたとのお話でした。

私自身は、武雄市全体の広さや地域の様子がつかめていないので、市民とのかかわりや、地域で身近に「市民が求める情報を提供し、市民の知る権利を保障する」という図書館本来の役割について、実際どのように展開されているのか、利用者アンケートに現れた、居住地域の(指定管理者導入後)の変化など、分からない事も多く、今後の動きを注視したいと思っています。

指定管理者導入を選択しなかった、近隣の伊万里市図書館の例なども聞いています。

武雄市の、小中学校、保育園などとの連携、学校図書館づくりへの助言協力、目標数値を持った講座の開催、年代別の司書講座、などなど、参考にしたいこと、もっと詳しく知りたいことも、多々ありました。今後も、御教示どうぞよろしくお願いします。

改めて、丁寧にご対応いただいた、大川市、武雄市のみなさまに感謝申し上げます。

## 都市民生常任委員会 視察報告

石崎 遊太

### 福岡県大川市 ～“モッカランド”を中心とした子育て支援施策について～

モッカランドとは、子どもと家庭を包括的に支援する大川市の施設です。それまで市内に点在していた子どもに関する施設を集約し、妊娠期から子育て期までワンストップで支援できる拠点として誕生しました。施設の延べ床面積は約1,774㎡と非常に広々としており、令和3年10月の開館から1年11ヶ月で累計来館者が7万人を超えたそうです。1日の来館者数は100人以上だそうで、ニーズと人気の高さが伺えます。整備費の約7億9000万円については、ふるさと納税を積み立てた“ふるさと基金”や国の地方創生拠点整備交付金を充てたとのこと。

実際にモッカランドを見て感じた素晴らしい点を、下記に列挙します。

- ① 市の中心産業である木工業の技術を存分に活かした、木の温もりあふれる内観（家具も木造でお洒落）。
- ② 休館日である火曜日と年末年始を除き、土日も含め8:30～17:15まで開館（家庭児童相談や発達相談等も対応）。
- ③ 大川中央公園や図書館と隣接しており、相互利用が活発。
- ④ クッキングルームの設備が非常に充実しており、隣接した日当たりの良い畳の部屋（おやこランチ）で食事も楽しめる。
- ⑤ カフェ兼コワーキングスペースのモッカフェがあり、働くパパママのテレワークにも対応。
- ⑥ 独立したファミリー・サポート・センターの部屋がエントランス近くに配置されている。

③については、例えば公園でゲートボールを楽しんだご高齢の方がモッカフェでお茶をして帰るなど、多世代の交流が実現している点も素敵だと思いました。⑥のファミリー・サポート・センター（子育てのお手伝いを“したい人”と“してほしい人”とのマッチング事業）については、会員数が令和4年度で計451人とのこと。三浦市の会員数は同じ令和4年度末の時点で計61人ですから、同規模の人口である大川市の活動は非常に活発であることがわかります。また、『モッカクラブ』という大川市の子育てアプリは無料で利用が可能



で、『母子モ』という母子手帳アプリをプラットフォームとして活用しているため、行政としても非常に低いコストで運用できているとのことでした。

三浦市もソフト面としての子育て支援策は拡充してきていますが、今回視察させていただいたモッカランドのような、ハード面としてのワンストップな子育て支援拠点の必要性をあらためて感じました。

少し意外に感じたのは、モッカランドの来館者の内訳として、大川市以外の方の利用が約4割もいらっしゃるということです。確かに大川市は複数の自治体と隣接しているため、よく考えればこうした使われ方はむしろ自然なことなのかもしれません。これと対照的に、三浦市は半島の先端に位置するという地理的な制約の中で、隣接した市町村が横須賀市のみとなっています。横須賀市の施設活用（連携）も含め、現状のハード面の不足をどう改善していくのか、現実的な見通しで考えなければならないののかもしれません。

## 佐賀県武雄市 ～武雄市図書館の運営について～

武雄市の図書館運営については、2013年に市が『代官山 蔦屋書店』のコンセプトやノウハウを導入するためにTSUTAYAの運営などで知られるカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下CCC）を指定管理者として指名したことが、大きな話題を集めていました。当時大学生として地方自治体の政策過程研究を行っていた私としても、どのような経緯でこの大胆な施策が実現に至ったのか注目していたものです。当初から賛否両論だったこの取り組みが10年近く経過した現在、どのような状況にあるのか非常に興味深く見学させていただきました。



### <時系列整理>

- 武雄市図書館および歴史資料館自体は指定管理が行われる前の2000年10月にオープン
- CCCによる指定管理制度を導入した上で、2013年4月にリニューアルオープン
- 以降指定管理者の公募も実施されたが、結果的にCCCが継続して3期目の運営にあたる

### <特徴>

コンセプト：市民の生活をより豊かにする図書館

目指す図書館像：「便利」で「役に立つ」図書館

#### 1. いつでも利用できる

365日年中無休、開館時間は9:00～21:00

#### 2. 居心地のいい図書館

図書館と書店とカフェが融合、幅広いニーズに応えるゾーニング

### 3. 体験できる図書館

さまざまなイベント開催（年間1,500回以上の年も）

まず目を引くのが建築物と内装（空間）の美しさです。建築当初はCCCによる指定管理は前提となっていなかったそうですが、リニューアルを経てとても調和の取れた空間になっています。

ゾーニングの考え方も斬新で、静かな場所とBGMがある場所が分かれていたり、中高生がグループ学習に使うことを想定した話せるスペースがあったりと、幅広いニーズに応えようとしていることがよくわかりました。

隣接したこども図書館では、読書だけでなく遊び場としての機能を持たせ、親子が1日中楽しめるような環境づくりを体現されていました。『子ども司書講座』や『おしごと算数講座』など、ワクワクするこども向けのイベントも多数開催されています。

非常に納得感があったのは、武雄市として考える図書館のビジネスモデル。すなわち、“純粋な図書館運営としての指定管理”と“蔦屋書店やスターバックスといった目的外使用”の両者をCCCが一手に受け持つことで、図書館の来館者数が増えれば目的外使用での営業売上（利益）も高まる→さらに魅力的な図書館運営施策に投資ができるという好循環（シナジー）が生まれるというスキームだと理解しました。いかに民間の経営ノウハウを取り入れたとしても、図書館運営だけを対象にするとその性質上コストカットありきの施策になってしまう可能性もあります。ここが“武雄市型の図書館運営”における肝なのだと思います。

気になっていた図書の選定プロセスについては、もともとあった市の選定基準に則り、選書会議を開いて館長が決裁→教育長に報告という流れになっているとのことで、透明性も担保されていると感じました。

独自の分類法（一般的な十進分類法ではなくライフスタイル分類）導入への賛否や特定企業の囲い込みだと指摘する声があったりと、ネガティブな見方も少なくない施策だったかと思います。ですが実際に見学した上での率直な感想を申し上げれば、非常に魅力的な図書館であったということに尽きます。ここは詰まるところ、利用する市民の方が判断することなのだろうと思います。

三浦市においても、新庁舎整備事業構想の中で新しい図書館の設置が検討されています。今回の視察での学びを活かしながら、より良い図書館運営の手法を考え抜きたいと思います。



## 行政視察報告

下田 剛

今年の都市民生常任委員会では、福岡県大川市と佐賀県武雄市に行っていました。

11月20日に福岡県大川市に行っていました。場所は大川市子育て支援総合施設「モッカランド」です。モッカランドの特色として「ついで」の利用で気軽に相談できることです。やはりファミリーサポート事業も立ち上げ当初は登録者数が少なかったとのこと。令和5年8月には来館者累計数が7万人に到達もしました。開館後1年11か月とのこと。



木造建築で平屋なので広々土地を使っていることがわかりますが、平屋なのか施設内の空間や空気がゆっくり流れているような感じもしました。その中でB型事業所の食器等を売っていたりするところも支援の総合施設ならではの感じも致しました。例えば平屋ゆえに広い廊下を走らないようにするには？というのも「走ってはいけません」のようないわゆる禁止事項を書くのではなく、動物の足跡を書くことによりその足跡を踏んでみようという子供が思うような工夫もされている。

建築物を真似するのは簡単であるが、そこを利用するにあたり「余裕」がなくてもあるような「工夫」が求められると思います。

また、説明をして頂いている最中も数人の高齢者や妊婦さんが普通に大川中央公園を利用されていたのが印象的でした。

11月21日には佐賀県武雄市に行きました。「武雄市図書館・歴史資料館」と「武雄市こども図書館」です。

武雄といえば指定管理者制度を導入（管理・運営委託）しましたが、図書館のコンセプトが「市民の生活をより豊かにする図書館」、ここをぶれずに行ってきたのが成功につながったと思います。

図書館で物を飲みながらというのもオシャレであり気軽ということなのかもしれません。自分自身図書館で一日過ごすようなタイプではありませんが、こういった工夫がされているのであれば一度行ってみようと思います。そこで新たな発見であり気づきも生まれることでブラッシュアップが常にかかる取り組みとなりそうです。

音が聞こえない所と音があるところを分けるということも必要で、そもそも音楽を流しているところであれば小声などは気になりません。そういった利用目的で上手くスペースを考えるのも良い点です。図書館なので時間も気にせずに学生さんも利用できることでしょう。

しかし一番印象深く思ってしまったのが、館長さんが良い施設にする。どうしたらきて頂けるかを真剣に考えているというのがヒシヒシと伝わってきたことです。そういったモチベーションにするには、館長さんのもともとというのもあったと思いますが、目標に向かってやっていこうという当時のある意味「昭和感」みたいなのところも感じられました。

何年後の館長さん含めた上のメンバーが変わっても継続出来ていくシステムにも注目したいと思います。

## 令和5年度三浦市議会 都市民生常任委員会行政視察報告

森谷 久一郎

### 1 福岡県大川市

テーマ 子育て支援総合施設「モッカランド」

#### ○施設について

令和3年10月開館以来2年とまだ新しく、大川市特産の木工家具や床材など温かさが感じられる材料をふんだんに使用した施設で、大川市中央公園内に1,744㎡の平屋建築と広い敷地をうまく活用している。



#### ○施設機能について

市の保健センター、子育て支援センター、市役所子ども担当課、ファミリーサポートセンターがモッカランドにすべて集約されており、また、各部署の連携が容易となっている。

市民にとっては、妊娠から子育て期までワンストップで支援可能な施設となっている。市役所は敷居が高いと感じる市民も気軽に利用できるような工夫が見られた。

本年10月からは、モッカランド内にこども家庭センターを設置しており、さらに妊娠から子育てまでの様々な相談に連携して対応できる体制が充実されている。

#### ○利用状況等について

コロナ禍があったにもかかわらず、開館して1年11ヶ月で7万人を超える来館者があり、市外の利用者も全体の40%を占める。口コミによる利用者の拡大が大きいとのこと。

特に、土日に家庭児童相談や発達相談を対応可能となっており、働きながら子育てしている家庭にとっては大変に有効と感じられた。

## ○三浦市での応用について

モッカランドは、広い敷地と建物で、様々な子育てサービスが集約されており、利用者にとっても運営側にとっても非常に使いやすい印象だが、三浦市に置き換えると、施設の設置そのものが現状では困難と思われる。

三浦市でも、モッカランドで提供している個々の市民サービスは提供できていると思うが、集約できておらず、関係機関の連携も弱いのが実情である。

将来的には、同様の施設整備が可能となるよう、長期計画で実現に向けて検討すべきと思う。

## 2 佐賀県武雄市

テーマ 武雄市図書館

### ○施設について

指定管理者方式により、既存の図書館とは異なる民間の発想をふんだんに取り込んだ施設となり、利用しやすさが大幅にアップした。

全国的にも先進的な図書館であり、図書配架ゾーンを中心に、本販売・カフェのゾーン、歴史資料ゾーン、別棟にシェアルーム、こども図書館など、複合的な図書館となっている。

### ○建物、各ゾーンについて

全体を見学させていただいたが、まず建物の構造がユニークでありながら、ヨコには曲線を活かし、タテにはフロアでゾーンを区分し、全体を見渡せる解放感があり、居心地の良さを感じることができた。

### ○指定管理者制について

設置計画の初期段階から指定管理者（組む相手）を決めたうえで、民間の発想を基本として運営・サービス内容を決めるという、行政の手法としては異例の進め方を採用したということが、斬新な図書館となった原点とのことで、大いに参考となった。

指定管理料は高額だが、それでも良しとするか否かは行政側の判断であり、市長の判断が求められる。

### ○三浦市での応用について

三浦市では、現在進めている市民交流拠点整備事業の中で、指定管理者制による図書館を新設しようとしている。

規模は武雄市図書館には到底及ばないが、具体的な図書館運営においては、武雄市方式を部分的でも導入可能と思われる。

既成観念にとらわれない、利用者目線での新図書館になるよう、議員としても注視し、関わっていききたい。